

農業クラウドWGの活動について

2012/07/19

主査 深谷朋昭
(富士通株式会社)

JCC 農業クラウドWG 2011年度 活動計画振り返り

□活動テーマ

(背景)

- ・農業生産者は小規模のため、例えクラウドシステムでも導入ステップが踏みにくい
- ・生産者～ICTベンダの距離が遠い

(テーマ)

- ・生産者-自治体-ICTベンダが連携した農業クラウド基盤の整備

(結果)

- ・大分県、宮崎県を訪問し、意見交換

【自治体コメント①】

- ICTによる大規模圃場管理とノウハウ蓄積に期待
- ICTへの期待
 - 生育予想による安定供給
 - 新たな知見
 - 再現性の育成方法の発見
 - 新規就農者のスキル習得支援 など
- 口蹄疫対応でクラウドサービスの威力を感じた

- 農業振興は農業単独では無理。農商工連携を進め
コスト削減や売上増大の関連でICT活用を期待
- 県が事業主体の場合、事業効果を求められるが
現状では農業へのICT活用効果を十分説明できない

【生産者①】

- ・ICT活用により、人材育成やノウハウ共有が出来ていなかった事に気がついた
- ・データ蓄積により、人件費の比較が出来た
- ・ICT導入で会社の仕事の仕方が変わった
- ・ICT活用の期待
 - 育成マニュアルの作成
 - 圃場管理
 - 遠隔での圃場監視
 - 圃場毎のコスト管理
 - 人件費の管理
 - 川上と川下とのマッチング
 - 画像を活用した営農指導
- ・農業分野で活用が進まないのは、水田、畑作、酪農等の範囲が広すぎるからではないか

【生産者②】

- ・病害虫データがクラウドで利用できると便利
- ・地域毎の積算温度を提供して欲しい
- ・フリー地図に圃場をプロットした場合、圃場の位置や形状が現場と合わず、修正に手間がかかる

【関係省庁様】

- ・1×2×3の6次産業化に向け、農山漁村の活性化や所得向上の実現にはICTが非常に有効と期待
- ・クラウドがICT利活用に大きな変化をもたらす
- ・先進的なモデル構築を期待する

【民間ベンダー】

- ・農業と他分野の共通基盤化の検討が必要
- ・観光等の農林水産業以外の地域産業を含めた合意形成により地域内でICT化を進めるべき
- ・新規就農者が失敗しないような仕組みづくりも公共に期待する役割

対外向け活動

日EUクラウドセミナー

- ・2012年4月19日
- ・主催：総務省 & 欧州委員会
- ・内容：日本の農業の現状
JCC農業WGの活動の狙い 等

JCC 農業クラウドWG 2012年度活動計画(案)

(課題)

- ①自治体農業振興策に向けたICT活用の議論が十分でない
- ②WGの民間側メンバーの知恵の結集
- ③関連省庁との連携

(今年度アクション)

- ①自治体農政部門等と、H23年度のヒアリング結果を参考にした、農業振興とICT活用についての意見交換
- ②民間メンバーより農業振興に資するICT事例を発表いただき先進事例研究、視察など
- ③関連省庁様と農業分野振興に向けたICT活用議論と支援事業に向けた議論

2011

2012

現状の課題整理
・自治体、生産者
ヒアリング

- ・前年度の議論を踏まえたWG活動
- ・農業クラウド(他サービスとの連携含む)の普及に向けた検討

報告書作成
(活動完)

活動継続
・実証実験
・標準化